

「誰が？」

教育研修部 永島 裕久

HIROHISA NAGASHIMA

人生のアディショナルタイムを迎え、少しばかりゆとりができたのだろうか。些細なことが気にかかるようになった。

そのひとつは、あちらこちらで必要以上に使われる受け身のことばだ。あるときテレビでアナウンサーが「今夜、何々が放送されま〜す！」とアップで投げかけてきた。即座に「放送するんは『あんた』 やろ！『何々をお送りしま〜す！』と言わんかい？」と思ってしまった。そういえば役所でも「何々法が施行されました」と広報することが多い。法律が主語だと「されました」となり易いが、所管の官庁が「施行しました」と言ってく

れないと市民は「無責任さ」を感じ取る。行動の主体を明確にすると響きが強くなり使いにくいのだろうか。イライラしやすい満員電車で、車掌が「扉を閉めます」と言わず「扉が閉まります」というのも響きを弱める知恵かもしれない。

組織では柔らかさは大切だが、それだけでは通じない。使いやすいからと言って主体をはぐらかしても責任はついてまわる。アディショナルタイムだって本割の一部だ。ポーツと生きていては叱られてしまう。組織に身を置く間ぐらい人と人を繋ぐことばを丁寧に扱いたい。

編集後記

JWセンターでは、電子マニフェストの利用が進んでいない業種を重点に普及活動に取り組んでおります。

今号では、汚泥を排出する下水道事業に携わる方々にお集まりいただき、電子マニフェストの導入・運用紹介、課題・要望等をテーマに「下水道事業における電子マニフェストの利用促進について」と題する座談会を開催いたしました。次回は、各地域の建設業の方との座談会を開催し、ご紹介する予定です。電子マニフェストの導入、運用のご参考になれば幸いです。

「産廃クローズアップ」では株式会社Jバイオフodリサイクルの

「食品廃棄物を利用したバイオガス発電と電力供給・料金割引サービス「創電割」」取材いたしました。

「行政のうごき」では、兵庫県よりリサイクルの推進、クリーン活動等に関しご寄稿をいただいております。

ご多忙の中、記事をお寄せいただいた執筆者の皆様、取材や編集にご協力いただいた皆様、本誌を読んでくださった読者の皆様に心から感謝申し上げます。
(菅野)

■本誌に関する連絡先:総務広報室(e-mail:jigy@jwnet.or.jp)

〈アンケートへのご協力のおお願い〉

より充実した誌面作りのために、本誌の記事内容等に関する読者アンケートを当センターホームページ(以下のURL)に掲載しています。本誌に関するご意見。ご要望を是非、お聞かせください。

URL https://www.jwnet.or.jp/info/kikansi/kikansi_anq/index.html

JWセンター情報(季刊)VOL.19 NO.4 発行日:2020年1月15日発行 発行人:関 荘一郎

発行所:公益財団法人 日本産業廃棄物処理振興センター

〒102-0084 東京都千代田区二番町3番地 麹町スクエア7階

TEL:03-5275-7111 FAX:03-5275-7112 <https://www.jwnet.or.jp/>

デザイン・印刷:株式会社文洋社